

ナナフシを飼育して

浅田 卓

平成7年6月12日、美方郡村岡町村岡の山中で、樹高1m程のクロウメドキの葉上からナナフシを採集した。ナナフシといえば直ぐに擬態が連想されるが、ばれないと思っているうちはじっと静止しているけれど、一度危機を感じると結構動きが敏捷で、葉裏に逃げたり地上の草むらに落ちたりする。また、枝を組み合わせたような体形なので、素手だと実に捕まえにくい。その結果、採集の際不覚にも右側の前脚と左側の中脚がとれてしまった。

なお、当初はこのクロウメドキとの関係を何とも思わなかったが、その後何回か同じ株にナナフシを見かけ、他の場所のクロウメドキにもナナフシがいたことから、かなりしぼられた食樹ではないかと思うようになった。

さて4本脚のナナフシの飼育だが、容器には成長に従って直径10~20cmの腰高なタッパウェアを使用し、餌はクロウメドキの小枝を数本入れ、週1回程度取り替えた。新鮮な葉を入れると、直ぐに食べはじめることがあるので観察していると、葉の側面の上から下に円弧状にかじっており、やや遅めではあるが一般的な蝶の幼虫と変化はなかった。飼育しはじめて最初の脱皮をしたナナフシを観察していて驚いた。何と脚が5本になっており、いつの間にかやや短めの前脚が生えているのだ。そして次の脱皮をしたとき、とれた中脚のところに短いらせん状の脚のようなものが生え、さらに次の脱皮の後に観察するとちゃんと6本脚のナナフシが食事中であった。

ナナフシは不完全変態であるが、結局採集したとき体長5cmぐらいの幼虫が何齢か不明であり、その後何回か脱皮を重ね、最終的に8月終わり頃に体長10cmあまりとなって成長が止まったので、

おそらくそのときが成虫だったのだらうと判断できると思う。

クロウメドキは落葉樹であるから、9月中旬になると緑は色あせ部分的に黄葉しはじめ、餌を取る際枝を選んで少しでも緑の濃い葉を与えるようにした。そういえば、9月になってからは自然状態でナナフシを見ることはなくなり(ただし、9月末に鉢伏高原でトビナナフシを採集)、飼育個体の動きも悪くなったと思う矢先、9月25日に容器の底に落ちて死んでいた。

元々専門は蝶なのでナナフシに関する詳細な文献を持っておらず、調べれば書いてあることばかりかも知れないが、約3ヶ月半程の飼育における門外漢の観察記録ということでご容赦願いたい。(ASADA TAKASHI 神戸市垂水区西舞子7-16-2-108)

コオイムシの採集記録

蛭田永規

コオイムシ *Diplonychus japonicus* Vuillefroy を採集したので報告する。県下での記録についてはよく知らないが、水生昆虫の生息環境が悪化する中で少なくなりつつある種と思われる。

19.VIII.1995 1♂1♀ 多可郡黒田庄町黒田

採集した池は、周りを水田に囲まれた農業用のため池で、コウホネが水面を覆い、チョウトンボ、シオカラトンボ等の多いやや富栄養気味と思われる池である。コオイムシの他にはミズカマキリ、コシマゲンゴロウ、ヒメガムシ、マルタニシ、スジエビなども採集した。

その後の飼育の中で、採集後7日目に1頭の背中に卵(約40個)が産みつけられたことから、採集した2頭が♂♀であることが判明した。

また、食性についてであるが、マルタニシの幼生や、コシマゲンゴロウ、ミズカマキリの捕食後のスジエビなどを食べているのが見られた。

(HIRUTA HISAKI 姫路市飾磨区阿成字黒石22-3 県職員住宅212号)